美女入門

拷問のような中国ハリを毎日続けている私。そりゃあつらいけれども、確実に痩せていると思えば、頑張ろうという気にもなってくる。

しかし罠はいくらでも発生する。そお、宴会付きの旅行というやつだ。

秋のよく晴れた日、仲間で一泊の福島旅行に出かけた。ずうっとボランティアでやっている高校への出張授業である。

みんなでミニバスに乗っている最中、誰かがアズキ茶のことを言った。なんでも福島のお菓子屋さんがつくっているもので、小豆を煮る際に出来る汁を利用したものだそうだ。これに秋元康さんが目をつけ、全国にアピールしていくそうである。

「福島はお菓子のおいしいところだからね」

福島出身のヤナイさんが言う。ミニバスの窓から見える秋の空は青く澄んでいて、いかにもお菓子日和。こんな時、番茶に甘いお菓子があったらどんなにいいかしら…。

「私ってこの頃、ケーキは我慢出来るけど、小豆に弱くなって」

私は遠い雲を見ながら言った。

「あーあ、うさぎ屋のドラ焼きが食べたいなあ。それから麹町の一元屋のきんつば、割ると小豆がぴゅっと出てくるやつ」

「あのさあ、知ってる？　赤坂のとらやの赤飯ってうまいんだぜえー」

ダイエットをいつも一緒にしては、一緒に失敗しているサエグサさんもつぶやく。

「小豆がいっぱい入ってて、絶品の赤飯だよなあ。予約しなきゃ手に入らないけど」

「いいえ、地下の茶寮ならいつでも食べられるわ。とらやといえば、そろそろお汁粉の季節だよねえ。小豆の粒々がぴっちりの、私は田舎汁粉が好き」

私は故郷山梨の草餅の話をした。私の実家の近くに住む農家のおばさんが、手づくりの草餅を売り出したところ、これが大評判になってバカ売れし始めた。雑誌にも「究極の草餅」として紹介されたぐらいだ。息子も勧めを辞めてお菓子をつくり始め、今は一日限定三百個ぐらいつくる。そしてこの農家の店先で、夏は氷アズキとかあべ川餅も食べさせてくれるのだが、どれもうっとりするぐらいおいしい。

「私はお菓子屋の孫だから、甘いものにはかなりうるさいわよ」

田舎の秋の空は、いつしか郷愁へとつながっていく。私の家の隣りは、祖母がやっていたかなり大きなお菓子屋であった。孫の私はいつも出入りし、手伝うふりをしていろいろなものを口に入れていたっけ。カステラを切って箱に入れる際、切れ端が残る。それは私が独占して食べる。クッキーの大箱の隅に残った粉でホットケーキを焼いてもらう。売れ残って固くなったクリームパンやアンパンは、次の日、ご飯を炊く時上にのっける。熱々のクリームパンのおいしいことといったら…。なんと私は、そういうことを三十分以上喋り続けていたのである。そんなに甘いものが好きなんですかと、地元の人が言った。

「今日、ハヤシさんたちが泊まるホテルの三軒隣りが、有名な薄皮まんじゅう屋の本店です。そこではふかしたてのものを売っていますよ」

ゴクリと喉を鳴らすサエグサさんと二人。私たち、今ダイエット中なので甘いもの、炭水化物は厳禁なのだ。しかし部屋に着くなり電話がかかってきた。

「おまんじゅうをせいろで蒸しているところを見たいから、ちょっとだけ見に行こうよ。本当に見るだけ」

「そうね、お土産で買うだけにしよう。それならいいもんね」

しかしこの有名な老舗の本店は、ものすごく感じがよく、ウインドウの前に立っただけで、熱いお茶と試食用のおまんじゅうを出してくれるではないか！　しかも丸ごと一個だ。これでは食べないわけにはいかない。おまけにこの店はすべてが大らかで、クルミまんじゅう、ゆべし、大福、チーズケーキ、カステラ、すべてのものが試食用に四分の一にカットされていた。一口サイズなんてケチなことはしない。私はまたたくまに、六種類の試食用菓子を口にした。私の、ものにとりつかれたような様子に店員さんもギョッとした表情だ。久しぶりの甘いものは、涙が出るぐらいおいしかった。

ふと見るとサエグサさんはアイスクリームケースから、小豆のキャンディを取り出し、二本買い、一本を私にくれた。

「これ、すごくおいしそうだよ。食べようよ」

私、この前に試食をたて続けにしたのが申しわけなく、おまんじゅうを二十個買い、お茶が残っているのを幸いに、その場で二個食べた。しかもアイスキャンディまで…。しかしキャンディは食べなければ溶ける。私は仕方なく小豆キャンディを食べながらホテルに戻った。そしてもういつもの「毒を食らわば」という気分になり、宴会に出たお料理を残らず食べた。

そして私は、今、二キロ太っている。

深い深い絶望と自己嫌悪の中を生きている。もうこんな日々はイヤだ。食べても食べなくても地獄が待っている。

が、今からアンアンのホリキ編集長とお鮨を食べに行く私。「絶対におつまみだけ」と誓ったが、そんなことが守れるはずはない。

「食べるも地獄、食べざるも地獄」 No. 397

絵と文
林 真理子

5冊揃えて、あなたも美女道を極めましょう。『美女入門』『同PART2』『同PART3』、同PART4『トーキョー偏差値』、同PART5『美女に幸あり』は全国書店で好評発売中です。

素肌美人に見せる理想的な肌づくりに。

カルディナーレ プレメイクシリーズは、なりたい肌色、肌質で選べます。

●プレメイクシャイニィ
オーラを放つ輝く肌。
●プレメイクアクション
きわだつ透明肌。
●プレメイクニュアンス
やわらかマット肌。

カルディナーレ プレメイク(化粧下地)
各23mL ¥1,890(本体価格¥1,800)

株式会社 オーガンディー ラボラトリーズ
〒162-0845 東京都新宿区市ヶ谷本村町1-1
お問い合わせは
0120-82-1104
●または03-3235-7497
お求めは、全国有名バラエティショップなどで。